

令和元年度 藤枝明誠高等学校 学校評価 ※ 評価基準 A：十分に実践されている B：ある程度実践されている C：不十分である D：わからない

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切に作る豊かな情操」を培う。また、日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。						
重点項目	I 学習指導の充実 II 進路指導の充実 III 心豊かでさわやかな生徒の育成 IV 広報・渉外活動の充実 V 教育施設・設備の活用		自己評価			学校関係者評価	
重点目標	項目	令和元年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標 【 】は数値的目標	平成30年度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応	評価	教員からのコメント (評価理由・意見感想・改善点) (70名)	評価 学校関係者評価委員からのコメント (8名)	
I 学習指導 の充実	授業改善への取り組み	①生徒の意欲が高まるような分かる授業を実践するとともに授業改善に努め、授業アンケートの結果向上を図る 【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 【授業満足度(生徒)と自己考査(教員)を年4回実施】 ②普通科と英数科、各クラス間、各教員間の指導の格差を改善し、指導の共通化を図る ③定期テスト後に教科会議を開催し、学力定着度の検証及び教科指導の改善を行う ④各教科、中堅以上の教員がテーマを設定した研究授業を行う	①◇【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率94.1%)】 ○【生徒の授業満足度調査、授業に対する教員自己考査とも年4回実施した。】 ◇授業満足度調査の満足度は高い水準にあるが目標値に達していないため、結果を活かしての授業改善を更に進めたい。 ◇すべての教科で授業技能に関するノウハウの共有化を更に進めたい。 ②◇英数科と普通科の指導の共通化が進められているが、クラス間や教員間の指導の格差がまだまだ大きいので、更に改善が必要である。 ③○教科会議を毎週行える状況(時間割)があり、指導の改善のための教科会議が実施されている。 ④◇研究授業は実施されているが、ノウハウの共有化という目標の浸透には至っていない。	A 5.8 %  B 72.9 % C 17.1 % D 4.2 %	・英語科の指導は生徒の能力に応じた内容で行われており、成績向上も見られるが、旧帝大や難関私大に対応できる生徒を育てる授業以外でのプロジェクトが必要だと思う ・特に普通科で、学力の低い生徒の学習意欲向上のための方策が必要である ・私大の入学定員管理の厳格化に伴う私大入試の軟化、入試改革に伴う総合型選抜、学校推薦型選抜における学力試験の導入等の情報を特に普通科の生徒に正確に伝え、授業を通しての基礎学力の構築が大切なことをより強く意識させる必要がある ・例年高校3年生普通科総合文系の授業は12月以降になると授業が成立しなくなることがあり、ビデオ鑑賞等が増えたりしたが、今年度は教科担当者が授業内容に工夫を凝らし、充実した授業を行うことができた ・普通科、特に総合文系の3年10月以降の授業が酷すぎる。6時間中半分以上が自習になっている。生徒・保護者からの不満が多かった ・普通科の方向性が見えない ・普通科生徒の授業態度が悪い(居眠り、内職等)。改善が必要である ・普通科と英数科の学力差は依然として大きい。最近では英数科内の学力差も大きくなるばかりである。指導の共通化というのは実際のところ難しい。その必要性にも疑問を感じる。各教科の特性を生かした指導のメリハリを考えることが必要である ・普通科と英数科の指導の共通化が進められているが、まだ十分ではない ・各教員間の指導について共通化を図っていると思う ・普通科・英数科の指導の共通化は更に進めていきたい。もともと学力の高い生徒を伸ばすことも大切だが、学力の低い生徒を伸ばすことも大いに意義があり、教師の使命だと思う ・教科会議という学びと発表の場があるので教員間の意思の疎通が図りやすい ・教科会議や教科の研修会で様々な情報を共有できているが、授業についてももっと指導法等を共有していきたい ・非常勤の先生方とのより緊密な連携を各教科会議で行い(目標の確認等)、さらに授業改善に努める必要がある ・中堅以上の教員が研究授業を行うが、ノウハウの共有化はできていない ・授業スキルに特化した講座等を若手教員中心に行ってはどうか ・教員間の指導力格差を自覚して、他のクラスの授業を相互に見学する必要があるが、時間割等の都合でなかなか叶わなかった。進捗や指導内容については教科会議等で密に調整することができたものの、指導方法についてはどのような違いがあるのか、明確に把握できていない。指導力格差を改善するには至っていない ・授業方法が時代についていけないと感じる。他校の状況を参考にしたい ・スクリーンやipad等を活用した授業ができるといい ・HR日誌の記載内容や教室の見回りで、教科書の範囲が終わっていないにも関わらず、自習にして生徒を怠けさせてしまっている授業がある。授業アンケートでは充分ではない。実態調査の必要性を感じる ・教科間での情報がシェアされ、問題(トラブル)の早期解決ができています。普通科と英数科で教員側の教えることに対する温度差や英数科は英数科、普通科は普通科といった考えも未だに残っている ・授業アンケートについて、授業が楽な教員には高評価、厳しい教員には低評価といった傾向があり、純粋な授業評価になっていないと思う ・授業アンケートが形骸化している感じがする ・生徒の授業アンケート結果の教員へのフィードバックが非常に遅い	A 0 %  B 87.5 % C 12.5 % D 0 % % % % %	・英数科の中でも学力の差があり、英数科全体のレベルアップが必要 ・今の生徒はipad等の機器の扱い方や呑み込みが早く、それらの活用によって学習意欲や興味関心が高まるのではないかと。どんどん取り入れてほしい ・大学入試2021共通テストについて、問題の傾向や対策について説明していただければ、生徒・保護者は安心できるのではないかと ・研究授業をオープンキャンパスで見学したい ・生徒の学ぶ姿勢を作るのはコミュニケーションを図ることなのですか？私も生徒自身が受動的に学ぶのか、能動的に学ぶかで定着度の差が著しいのではないかと ・英数科内の学力差を具体的に知りたい ・勉強が好きも嫌いも教え方次第と言われることがある。一層の努力をお願いしたい

I 学習指導 の充実	授 業 改 善 へ の 取 り 組 み			<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の故障のため、授業アンケートの3回目途中から集計ができなく、機器の修繕見込みが立たず4回目は実施できなかった</li> <li>・授業が多すぎて、授業実施後の反省や教材研究等の時間が確保できない</li> <li>・研究授業は教科によっては実施できていない</li> <li>・研究授業はあまり行われていない</li> <li>・英数科と普通科では入学時の成績が多少違うものの、生徒が求めるものは同じなので、3年後の到達点を見据えて、3年間、少なくとも1年間の目標を持って授業に臨む必要がある。1時間1時間の授業ではなく、年間を通してどうしたいかである</li> <li>・「教えてもらおう」という受け身の生徒を作っていないか? 「学んで、その教科をものにしよう」という生徒の姿勢を作らなければならない</li> </ul>		
	学 力 の 定 着 と 向 上 に 向 け た き め 細 や かな 指 導	<p>①放課後プロジェクトや「9時まで学習」の一層の活性化を図る 【9時まで学習参加率65%以上目標】</p> <p>②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底を図る 【復習テスト年5回実施】</p> <p>③英語検定指導等を継続して組織的に行う 【英検2級220名以上、準1級20名以上】</p> <p>④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力)の向上のための取り組みを行う 【論理エンジンの有効活用・指導】</p> <p>⑤国際教養教育を推進する</p> <p>⑥普通科生徒の学力・学習意識向上のための指導を策定する</p> <p>⑦大学入試共通テストに向けて論述問題や英語4技能に対応した問題を定期テストに導入する</p>	<p>①◇図書室における放課後プロジェクトの参加は前年並みであった。 ○例年以上に職員室及び職員室前フロアで、積極的に個別指導を受ける生徒は増加した。 ◇「9時まで学習」の参加率は、H29年度の63%に対し55%と減少し、H28年度(54%)並みであった。今後、自学自習だけでなく補講などの仕掛けなども必要と思われる。</p> <p>②○各教科・各学年において、きめ細かな指導が実践された。各教科では、同学年の各科・各コースの担当者間での連携が取れていた。今後『明誠ダイアリー』を利用しながら学習習慣の確立のさらなる強化を図りたい。</p> <p>③○【英検2級既取得者数273名、準1級既取得者数16名】英検準1級既取得者数は目標値に達しなかったが、2級既取得者が大幅に増加しており、英語の学力が全体に向上しているといえる。</p> <p>④○論理エンジンによる指導が実施されているが、引き続き国語力向上に努めたい。</p> <p>⑤○ドリーム・ゲイトウェイ・プログラムや国外からの教育訪問団との交流により、グローバルな視点を持った発信力が涵養された。</p> <p>⑥◇H30年度より土曜日を利用した教科横断型の授業を高3総合コースで実施し、生徒の学習に対する意欲の向上にある程度貢献できたと考え、引き続き実施し、更なる工夫を加える必要がある。</p> <p>⑦○各教科において、大学入試共通テストに向けて定期テスト等の工夫を行っている。</p>	<p>A 25.7 %</p> <p><b>B</b> 60.0 %</p> <p>C 10.0 %</p> <p>D 4.3 %</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関わることでできなかった項目も多いが、学校生活で生徒、教員ともにどれも意識して日々を過ごしていたと思う。当然、各項目に密接に関わられた教員の中には、まだまだ達成されていないということを詳細に把握されている方もいらっしゃると思うが、学校全体の雰囲気は紛れもなく高い意欲のあり様を示していると感じる</li> <li>・個別的問題の解き方を教えるのではなく、そういう問題を解けるようになるためには、どういう学習をしなければならぬかを各教科担当者が生徒に合わせて指導する必要がある。まじめにやっても伸びない生徒がいる。「やり方」が分かっていないようである</li> <li>・朝テスト、週末課題などを丁寧に最後まで行うことができた。また、「9時まで学習」の補講や個人指導を行った</li> <li>・どのような学力を身につけさせたいか、科・コースで明確にすべき。単に進学するためだけということでは他の私学に入学者を持って行かれてしまうような気がする。明誠独自のものを作り上げていくべきでは?</li> <li>・生徒は積極的に学習環境・職員を活用している</li> <li>・「9時まで学習」の登録者は3年生375人中234人で62%と目標の65%をやや下回ったが、前年度の55%を大幅に上回り、年間113日実施することができた。また、今年度は国語科、英語科で期間中のほぼ週1回のペースでセンター演習講座を実施することができ、学力向上につなげることができた</li> <li>・「9時まで学習」の監督見回りの際、高校1・2年生の様子を見てみると熱心に放課後プロジェクトを利用したり、教室で自学自習に取り組んでいる生徒も見られた。「放課後学習会」「7:30まで学習」と銘打ち、自習場所として視聴覚室等を解放することで、低学年からより幅広い層の参加を見込むことができるのではないかと</li> <li>・「9時まで学習」に担当は日直業務のように全体で回すべき。高3職員・進路課長の善意で行われている現状はよくない</li> <li>・「9時まで学習」は成果につながっていると思う。補講や共通テスト研究は必要である</li> <li>・「9時まで学習」も例年以上の生徒が参加していた</li> <li>・「9時まで学習」におけるモチベーションを上げる工夫をしたい。クラスによって偏りがある</li> <li>・センター対策講座を昨年度より長く行い、生徒の学習の場として提供できた</li> <li>・7時限授業後に講座をやったりするには時間的なものや指導担当の事情があり、学年だけでは対応できない。学校全体としての取組みとして行われることが望ましい</li> <li>・大学入試への英語4技能の導入(共通テストでは2024年度以降)等の動きもあるが、本校では開校以来英語力の伸長・確認のために英検があるという位置づけを、今一度、全職員の共通認識としたい</li> <li>・英検の指導は共通テストの実施から考えても、より継続性と強化が望まれる</li> <li>・英検指導は組織的に行われていた</li> <li>・今年度は英検の合格者が多く(特に3回目)、学力の定着を図ることができたと思う</li> <li>・英検については先生方の努力のおかげで多くの合格者を出すことができた</li> <li>・教員によって英検指導に格差がある。英語科内で話し合い、統一させるべき</li> <li>・英検では3年生の2級取得者が過去最高の158名を記録し、高校全体でも292名と昨年度を上回った</li> <li>・英検の取り組みができています。英検だけでなく他の教科でも何か取り入れた方がよい</li> </ul>	<p>A 0 %</p> <p><b>B</b> 100 %</p> <p>C 0 %</p> <p>D 0 %</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「9時まで学習」の成果が出て、大変うれしく思う</li> <li>・生徒は「9時まで学習」「個別の質問」を積極的に活用している</li> <li>・文章を書く機会が少なく、高1の段階から小論文や大学志望書を意識した取り組みが必要</li> <li>・「9時まで学習」は担当職員が遅番で出勤して指導してくださっていると思っていた</li> <li>・「9時まで学習」は伝統となっており、先生方の苦勞も多いと思う。今後よろしく願いたい</li> </ul>

I 学習指導 の充実	学 力 の 定 着 と 向 上 に 向 け た き め 細 や か な 指 導			<ul style="list-style-type: none"> <li>・英検の高い級に多く合格している。2級取得で満足してセンター試験で得点できていない生徒もいるようだ。常に高い級に向かうような担任・英語科教員の指導が必要である</li> <li>・論理エンジンによって文章を読む基礎的な力が養えていると思う。成果はすぐに出るものではないので、諦めずに継続していくべきである</li> <li>・論理エンジンはよい教材であるが、いかんせん易しすぎるため（小学生でも使えるようにできている）達成感を得にくいと思う</li> <li>・国語では2年生の実力向上が運営会議で報告されている。これこそノウハウを教科で共有してもらいたい</li> <li>・国際教養コース1年でDream Gateway Programの趣旨を理解していない生徒がいた</li> <li>・復習テストを通して学習内容の定着を測ることができた</li> <li>・土曜日の授業は部活動等の有欠者が多く、実施するかどうかを含めて再検討が必要である</li> <li>・「きめ細やか」だったかと問われると、多くの教員が教科外の仕事に追われてしまい、一人ひとりに対処できない部分があった</li> <li>・定期テストが生徒の学力向上に役立っていないのではないかと。テスト間の授業時数が少なく、進度が遅い。2単位だとテスト間が5時間しか授業を行うことができないクラスもあった</li> <li>・定期テストや模試のやり直しをさせるシステムを進路課あるいは教務課で構築する必要がある</li> <li>・学習習慣確立のためにも「明誠ダイアリー」の朝終礼時における活用を徹底したい。いずれも必ず開かせ、朝礼時には昨日の家庭学習時間、就寝時間、本日の学習スケジュール（小テスト等）を確認、終礼時には課題や目標とする家庭学習時間の確認等、数名の生徒に発表させる。週明けには部活動の報告などを行う。こうした「明誠ダイアリー」を活用した朝終礼指導こそ充実した学習活動、学校生活につながる</li> <li>・「明誠ダイアリー」利用にあたって教員間で温度差が見られる。ダイアリーを用いず、教員作成シートを利用するなど、保護者へのアナウンスや生徒間で違和感が生じている</li> </ul>		
II 進路指導 の充実	進 路 希 望 の 達 成 に 向 け た き め 細 か な 指 導	<p>①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリア教育の推進を含む)により目標設定と進路意識の早期確立を図る</p> <p>②教員の教科・進路指導の力量向上を図る</p> <p>③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生徒各個人に対応した指導を行う</p> <p>【年2回実施】</p> <p>④生徒の満足度の高い進路指導を行い、大学への現役合格達成を図る</p> <p>【現役合格95%】</p>	<p>①〇1学年は、文理選択の「夢ナビシート」・進路課による進路ガイダンス（文理選択と大学選びについて）・「学部・学科レポート」による学問分野研究、2学年は、学部学科説明会（大学職員による23学部・学科、H29年度より+8）・進路課と3学年担任による進路ガイダンス（センター試験と3年生の受験成果について）、3年生は大学説明会（大学職員による30大学、H29年度より+5）を実施し、進路意識の高揚を図った。</p> <p>②〇夏季の駿台研修には、若手を中心に例年並みの12人の職員が参加し、教科・進路指導力の向上に向け、研鑽に努めた。今後は、教科会で報告を行い研修内容の校内への還元を図りたい。</p> <p>◇経験があり指導力のある教員の指導方法・ノウハウの共有化を図るためにも、各教科で授業研究の回数をより増やしたい。また、『明誠ダイアリー』を活用したPDCAサイクルの確立が、学力伸長と進路実現につながることを職員の共通認識としたい。</p> <p>③◇外部模試後の分析・検証を受けての、教科全体のアクションの部分が弱いように感じられた。</p> <p>④◇四大志望者の大学現役合格率は86.4%（231人）で目標の95%を大幅に下回った。大学進学率は89%（209人）で、浪人がH29年度よりは若干減少したが、11.9%（26人）と本年も二ヶ台になってしまったのは残念であった。</p>	<p>A 14.3 %</p> <p><b>B</b> 68.6 %</p> <p>C 11.4 %</p> <p>D 5.7 %</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年は進路課による進路ガイダンス(文理選択と受験制度について)、進研テキストによる進路学習(学問分野の研究と文理選択)、2学年は学部学科説明会(大学職員による23学部の説明)、進路ガイダンス(入試改革の整理と準備について)、3学年は大学説明会(大学職員による29大学の説明会)等で意識高揚を図った。休校措置で年度末に予定されていた次年度への意識高揚のための高1進路ガイダンス(外部講師による大学選び)、高2進路説明会(高3担任による受験指導の振り返りと卒業生の受験体験記)は中止となった</li> <li>・今年度高2で全生徒対象に志望理由書作成(学研テキスト使用)を導入し、指導したが、大学研究においても、入試準備として有効であると思う</li> <li>・総合的な学習等を用いて、年間を通した具体的な計画を少しずつ確立していきたい</li> <li>・生徒の学力に応じた進路指導と同様に高い目標(現実的な)に常に向かわせる指導力が担任には必要である</li> <li>・1年次から大学に関する指導を行い、特に普通科は行きたい大学・可能な大学を調べさせる</li> <li>・普通科では「指定校推薦ありき」の生徒が多く、進路意識が低い。高3の夏以降に突貫工事的に準備をするため、指導する側は大変である</li> <li>・大学へ進学した卒業生の追跡調査を行い、進路指導に活かすべきである</li> <li>・やりたいこと、興味のあることを追求していくと(どんどん細部に入り込み)「専門学校」がベストに近くなってしまふ生徒もいる</li> <li>・部活で進路先を割り振るやり方は例年と同じであり、「満足度の高い進路指導」と言えるかどうか、形骸化しているのではないかと</li> <li>・生徒の進路意識が低い。保護者の中にも部活だけやっつけておけばいいという人もいる。進学校という意識を持たせるべきである</li> <li>・指定校がなくなればもう少しは勉強するようになるのではないかと。指定校は勉強しないことを助長しているように感じる</li> <li>・指定校推薦については検討の余地があると思う。国公立大学に合格できる実力の生徒が指定校に行ってしまう傾向がある</li> <li>・生徒の意志とは別に国公立の〇〇大学を受けさせるようにしているということを目にした(よく話し合われていけばいいと思うが)</li> </ul>	<p>A 0 %</p> <p><b>B</b> 100 %</p> <p>C 0 %</p> <p>D 0 %</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大変細かな面まで指導されている</li> <li>・高1の文理選択は十分に考えさせる指導もあり、期間も長くよかった</li> <li>・公立よりも面倒見がよいという評判は続いている。また、実感もしている</li> <li>・進路資料はたくさんあるが、保護者も資料だけでは消化しにくい</li> <li>・夏の面談だけでなく、外部模試の結果も踏まえて、冬にも保護者との面談を行ってほしい。生徒と担任間ではよく相談ができているようだ</li> <li>・指定校推薦で進学した生徒(学生)の追跡調査結果を開示すべきである</li> <li>・生徒の意志が大切。希望大学を受験させてほしい。結果は生徒が納得する</li> <li>・現役合格へのこだわりは学校の姿勢として素晴らしい。進路情報の提供と進路指導者の更なるレベルアップをお願いしたい</li> </ul>

<p>II 進路指導 の充実</p>	<p>進路希望の達成に向けたきめ細かな指導</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が進路を考える資料や機会は十分に与えられている。ただ消化できていない生徒がいるのも事実である。それは生徒が目標をどうするか迷っているからだと思う</li> <li>・学部学科説明会は成功した</li> <li>・進路を考える機会が多く設けられている</li> <li>・進路意識の向上に向けた様々な試みによって生徒の意識・意欲は各学年において高まっている</li> <li>・進路意識を高めることができ、生徒にしっかりとしたビジョンを持って進路をどうするか考えさせることができた反面、過去の合格者のノウハウを活用する場面が少ないと思った。ノウハウをしっかりと活用したい</li> <li>・教員全員が「大学は研究機関であって、就職予備校ではない」ということをしっかり理解し、志望理由書等の指導にあたらなければならない</li> <li>・特に、保護者と担任のあいだでの進路に関するトラブルが多かったように思う。面談で何を伝え、何を確認し、何を聞き、面談後どうしていくのか等、研修が必要だと思う。寮生が多くなり、保護者に伝わりにくくなっている。また、保護者の考えや要望が担任に伝わりにくくなっている。学校（担任の指導）に依存する保護者も多く、最後のところでトラブルになっていると思う</li> <li>・先輩教員にアドバイスを求めることが多かった。質問することが苦手な教員もいると思うのでシステム化できるといい</li> <li>・今年度、卒業後の進路に関わることができた生徒はほとんどいなかった。よい意味で捉えれば高3年部の教員を中心にして進路相談や進路指導には手が回っていたと考えられる。しかし、高1のみの授業を受け持った自分にその手の話しが来なかったというのは果たしてよいことなのだろうか。</li> <li>・高1の文理選択についての相談は生徒個人の資質と目標の不確定さから生徒自身が悩んでもおかしくない内容だった。早い段階で「高校の次」を考えて行動する生徒がもっと増えて、相談が増えるといいと思う</li> <li>・模擬試験結果の検討については進路課長・教務課長・各学年主任・5教科主任の10名で検討会議を行う必要がある</li> <li>・外部模試等の分析を教科ごとに行いたい</li> <li>・外部模試の分析が大事なのは言うまでもないが、備え（準備）の部分を手厚くするのも大切である。定期テストの翌日に模試が組まれていると準備が十分できないので、実施時期をずらせるとよい</li> <li>・研究授業は他教科であっても是非見学したい</li> <li>・国語科では模試の振り返りのために教科会議で共通理解を深め、ベネッセコーポレーションから講師を招き、各学年の強化ポイントを把握した上で戦略を立てるようになった</li> <li>・夏期の駿台研修には中堅から若手教員11人が参加し、教科・受験指導力の向上に向け研鑽に努めたが、教科・進路へのレポート提出等で研修内容の校内への還元をさらに徹底したい</li> <li>・四大志望者の大学現役合格率は目標の95%には届かなかったが、91%（313人）と前年の86%を大幅に上回った</li> </ul>		
<p>難関大学の合格に向けた指導</p>	<p>①国公立大学及び難関・中堅私立大学に合格できるような学習・進路指導を推進する 国公立大学のAO推薦にも積極的に挑戦する 【第3学年 進路目標】 東大・京大・国公立大医学部→5名以上、 旧帝大→15名以上、 国公立大→100名以上、 静大→20名以上、 早大・慶大→10名以上、 GMARCH・東京理科・関関同立→100名以上合格 ②東大・京大等の入試問題研究を行い、合格へ向けての効果的な指導を研究する ③新大学入試制度に向けての研究と対策を行う</p>	<p>①◇H29年度は国公立大学合格者の4割に当たる19名がAO・推薦入試で合格を勝ち取ったが、H30年度は全体の2割に当たる9名にとどまり合格率も24.3%と苦戦した。国公立では定員の3割をこの形式の入試で確保することになるため、より早い候補者の人選と指導開始が大切だと思う。また、それに伴う後期日程の定員削減が原因と思われるが、後期の合格は8名で、例年合格率は3～4割であったが、15%と大変厳しいものになった。また私大も、H29年度に引き続き合格者の絞り込みの影響でMARCH・東京理科・関関同立は、42と苦しい戦いとなった(H29は57)。 ◇現役合格 国公立大学 → 東北1名（旧帝大計1名）、静岡8名、静岡県立6名、国公立大学計46名合格。難関私立大学 → 早稲田5名、慶応1名、上智</p>	<p>A 12.9% B 54.3% C 27.1% D 5.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を高くして頑張っていきたい</li> <li>・AO入試・推薦入試では学年問わず様々な先生方にお世話になりました</li> <li>・指導実績の報告を共有していきたい</li> <li>・調査書の書き方、推薦書の書き方などの講座を教員向けに設けてほしい。共通テストになり、調査書がより大切になるという意識が低いように感じる</li> <li>・受験指導体制が3年部に委ねられる現状は果たしてよいかどうか？学年主体よりも進路課・教科主体の方が結果に結びつくのではないか</li> <li>・教員の使命の一つに「研究と修養」がある。受験のノウハウの継承は現状からみても急務である</li> <li>・現実に対応していない。個別プロジェクトが必要である</li> <li>・数字で結果を残すためには、生徒の前に教員の意識改革も必要ではないか</li> <li>・学力トップ層が薄いため旧帝大や難関私大の合格は年々厳しくなっている。ノウハウの継承もあまりうまくできていないように思う。プロジェクトチームを作る必要がある</li> <li>・現状ではまず、静大の合格者増を当面の目標とすべきである</li> <li>・本年度の国公立大学のAO・推薦融資合格者は7名で昨年度9名よりも減となった。安全志向のはびこる中、成績上位生徒がAO・推薦入試を受験する傾向が昨年度以上に強くなっている</li> </ul>	<p>A 0% B 100% C 0% D 0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高1の段階からAO入試・推薦入試に必要な活動を伝えてほしい(部活動だけでなく、他でアピールする方法等)</li> <li>・「塾に頼ることなく、明誠だけで大丈夫」という感覚が、特に最上位層に薄かったように思う</li> <li>・難関大学合格の目標達成に向けたチームをつくることは可能なのか</li> <li>・「9時まで学習」「特別講座」など早期に実施していただきたい。大学入試共通テストについて不安に思う生徒・保護者が多いと思う</li> <li>・現役合格者について、合格者数＝入学者数なのか。できれば両方の報告があった方がいいのではないかと思う</li> <li>・一人で国公立大・私立大と併願しての合格者数となると結果報告として如何なものかと思う</li> </ul>	

<p>Ⅱ 進路指導 の充実</p>	<p>難関大学の合格に向けた指導</p>	<p>④実力養成のための授業力強化及び個別指導を充実させる ⑤高3センター試験後、国公立受験計画立案に学年の指導力を発揮し、二次対策講座の実施方法・内容も改善、計画完投の指導法を確立する</p>	<p>1名、明治2名、青山学院1名、中央8名、法政2名、東京理科1名、関西2名、関西学院3名、立命館8名 計42名</p>	<p>②◇最難関大学に挑戦する学力トップ層への指導については、H29度同様、ベテラン職員の個別指導であったが、ノウハウを継承するためにも、中堅・若手職員も参加しチームでの受験指導体制を構築すべきであろう。 ③◇外部研修に積極的に参加する職員も多いが、校内研修においてその報告を義務付けたい。 ④○各教科とも放課後の個別指導は、積極的に取り組んで頂けた。 ⑤◇二次対策講座は、H29年度よりさらに回数を増やすことができ、取得率も67%から83%と大幅にアップしたが、合格には結びつかなかった。二次出願検討での前期の強気の出願が影響したと考えられる(そういう傾向の生徒に限り後期を未受験の場合もあった)。</p>	<p>・国公立大学では定員の3割がAO・推薦入試の形態で合格者を出すことになっている。次年度は「総合型選抜」「学校推薦型選抜」対策のプロジェクトをスタートし、「9時まで学習」が始まる4月末からの早期指導に着手する必要がある ・現役生の進路目標の達成について。国公立大学 北海道大1名、九州大1名、福島県立医大1名、静岡大12名、静岡県立大10名(薬4名)など、合計60名。難関私大 早稲田大2名、慶応大2名、上智大3名、明治大3名、青山学院大1名、立教大3名、中央大4名、法政大6名、東京理科大4名、関西大1名、関西学院大6名、同志社大3名、立命館大17名、計55名 ・旧帝大や医学部を目指す学力トップ層の指導については個別指導に加え、「9時まで学習」の時間を活用してゼミ方式の特別講座を実施したい。今までそれらの指導を担ってきた教員に中堅・若手の教員も加わり、入試問題研究と指導方法の共有化を図る必要がある。ただし負担過多にならないように進路課でスケジュール管理をする必要がある ・二次対策講座の取得率は昨年度同様80%と高かったが、科目を絞る傾向が見られた ・東大・京大の入試問題研究はどこで行われ、どのように伝えられているのか。東大・京大研究会もあるが活動がないのではないか ・静大・県大の合格人数を出すという目標もあるが、具体的にこれらの大学の入試問題の研究も必要ではないか ・国公立大学の推薦入試において早い段階での候補生徒の人選と指導開始が、今後さらに必要になってくるのではないか ・国公立大学の2次試験対策講座は中間層以下の生徒が参加し、最上位層は個別指導に頼らざるを得ない状況になっている ・上位の生徒を伸ばしきれなかった ・静岡大学合格を目標に3年間5教科を学習している場合、国公立大学に合格できる学力に到達してきた生徒はいいが、できなかった生徒は結局(県内だと)常葉大学レベルにしか合格できない3教科力に終わってしまう。 ・難関大学に合格させるためには、そのレベルの問題に精通した教科担当者が合格ラインから逆算して3年間どう指導すべきかと考える必要がある ・国公立大学が難化しているので、その対策をしっかりと取らないといけないと感じた。小論文指導は国語科全体で行っているが、どの教科も全体でケアしていかないと難しいと思う ・今年度高3生に教科指導する機会はほとんどなかった。他学年の授業を担当したため時間的にも大学受験に関わることは難しかった。「9時まで学習」の際に教科の質問を受けた程度である。今年度の進学状況は苦戦を強いられるという話を聞き、自分が関わった生徒の多くが新しい入試制度の中で戦っていかなければならないということの重さを改めて感じた</p>	<p>・受験対策の専門の先生を養成、あるいは外部より加わっていただくことが必要だと思う</p>
<p>Ⅲ 心豊かで さわやかな 生徒の 育成</p>	<p>社会性や道徳心の育成</p>	<p>①礼節を重視し、様々な場面で、マナーや社会的規範意識を育成する。正門一礼や予鈴黙想の励行なども継続して指導する ②校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導 ③交通マナーの指導を強化し、地域住民の苦情をなくすとともに交通事故防止を図る 【交通事故10件以内】 ④德育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する ⑤生徒の様子の観察、生徒面談、いじめ調査等を活用して、いじめ行為防止に取り組む ⑥インターネットなどSNSについての啓蒙を行い、問題発生を防止する 【いじめ調査年3回実施】</p>	<p>①○礼節指導を継続して指導した。挨拶は良好である。 ◇校外での社会道徳や一般常識の一層の向上が必要である。 ②○サッカー部、陸上部、野球部等の自主的な清掃活動(早朝等)により、校地や学校周辺の環境美化ができた。 ◇HRで清掃活動指導を行ったが、指導しきれない部分もあった。 ③○交通安全委員による街頭交通指導は交通安全推進に貢献した。生徒課による街頭指導の実施。 ◇交通マナーについてHR等で繰り返し指導したが、地域住民から交通マナーに対する苦情が時折寄せられた。 ◇【交通事故18件】内5件は相手側の過失。 重症事故1件、その他は軽微な事故であるが、重大事故に繋がらないように日常の指導継続</p>	<p>A 29.1 % B 58.6 % C 12.9 % D 1.4 %</p> <p>・生徒は概ね良好な生活態度でいると思う ・項目の全てに取り組み、安定した学校生活が営まれている ・知るかぎり、マナーは良好である ・生徒指導については平和であったと思う。特に、台風の後の処理を部活動の生徒や教員の力で行き、学校を止めないで対応できたことは大変素晴らしい ・いじめアンケートの実施はいじめ防止につながる ・35期生に関しては生徒指導の柱を「凡事徹底」と置き、それをくり返しながら明誠生としての自覚を促してきた ・部活動内の人間関係トラブルを顧問・担任と連携して対処していた ・SNSに関しては注意喚起・啓発を具体例と危険性を示して指導した ・部活の清掃活動はよいが、学校での清掃時間でできていない生徒がいる。部活の清掃だけである ・清掃活動中は良好。生徒にきれいな状態を維持しようとする姿勢や態度を養わせたい ・部活の清掃活動が自主的とは感じない。それよりも通常清掃をきちんとやるべきである ・もっとしっかり清掃に取り組む生徒を育てたい。幼稚な生徒が多い ・日常の清掃活動、特に校舎外、草取り、落ち葉集めなど、部活以外の日々の清掃活動をもっと強化したい</p>	<p>A 0 % B 75.0 % C 25.0 % D 0 % %</p> <p>・明るくさわやかで、高校生らしい生徒に育っていると思う ・女子生徒のあいさつができていないと思う ・自転車の一旦停止、並進運転など交通マナーが悪い。子どもたちの命を守ることをくり返し実施していくことが必要である。家庭でも子どもたちに伝えていくことが大切である ・交通マナーについては並進走行の生徒をよく見かける。また、一旦停止の標識のある所で止まらずに素通りするのも見かける。とても危険だと思う ・清掃の仕方は各場所にマニュアルはあると思うが、教員がよく理解し、少しの間手本を見せて指導したらいいかが。口だけで言ってもなかなか浸透しにくいかもしれない ・交通マナーが悪すぎる</p>	

<p>Ⅲ 心豊かで さわやかな生徒の 育成</p>	<p>社 会 性 や 道 徳 心 の 育 成</p>	<p>⑦教員の生徒指導力、クラス経営力向上のための研修（救急救命法、人間関係構築、カウンセリング、コーチング等）の研修を実施する</p>	<p>◇自転車施錠点検を実施。施錠率は向上したが、定着しない生徒もあり継続指導が必要。 ④◇問題行動・自転車無断借用1件。定期テスト時の不正行為2件。 ⑤○いじめ調査は3回(7月、11月、2月)実施したが、実施時期を早めたことにより、早期対応ができた。いじめに関する調査、イモカードの活用はいじめの防止に役立った。 ⑥ SNSによるトラブルは特になし。 ○【いじめ調査年3回実施】 ⑦救急救命法の実施。</p>	<p>・毎日の清掃活動は場所によってきちんと行われているところとそうでないところの差が大きくなっている。監督するはずの教員が立ち合っていないだろう清掃箇所がいくつかある。これでは10分間がまるで活用されていない。生徒を指導する前に教員自身が清掃に対する意識を変えて、積極的に取り組むようにならないと学校全体の美化は難しいと思う ・清掃の時間の指導をしっかりとする必要があるのではないか ・職員打合せが長引き、清掃時間に食い込むことよくある。清掃開始時間を5分後ろにずらしてはどうか ・部活主体の礼儀作法になってはいないか? 明誠の全人教育というものは何なのか、しっかりと継承していくべきではないか。教員の意識向上や意思統一の場があまりないため、各々が個別によかれと指導している場面がある ・部活動を中心に指導がなされているように感じる ・部活動内の人間関係トラブルを顧問・担任と連携して対処していた ・あいさつを教員から積極的に行うことで学校内の雰囲気をさらによくしたい ・挨拶は良好。予鈴黙想が日に日に甘くなっていった ・基本的にはできていると思うが、普通科の一部の生徒のマナーが悪い。担任だけでなく、部活動を巻き込んだ指導が必要である ・自転車登校の生徒が多い現状で、マナーの遵守は必要である。常に登下校に目を配ることはできないので、指導し続けることで減少させていくしかないと思う ・交通マナーの改善が必要である ・部活動で校外活動する際に交通マナー等、気を抜きがちである ・生徒指導に関して若手教員育成の努力が見られない ・礼法・武道の授業でマナーや礼儀を学んでいると思う。また、年に数回ある乙女塾だが、強制参加であり、費用を徴収することが良いのか疑問である。女子だけ特別に強制的に参加しなければならないというのは、昨今の情勢では男女差別になるのではないか</p>	<p>・藤枝学園は社会性・道徳心の育成には歴史もあり、安心している。これからも心豊かな生徒を育てていただくことを期待している</p>
<p>基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立</p>		<p>①欠席や遅刻等の減少を図る。インフルエンザについては感染防止対策を徹底する ②正しい身だしなみの指導を徹底する 【学年全体風紀指導年6回実施】 ③ジャージ・サマーセーター等の着用指導を徹底する ④基本的生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する ⑤校則遵守の徹底を図る</p>	<p>①○各クラスに手指消毒薬の導入と教室の換気等の徹底により例年より患者の減少が見られた。 ◇遅刻が減少するには至らなかった。 ②○学年校風指導を学年団の意思統一のもとで6回実施した。服装面で大きな乱れもなく、スカート丈についても良好であった。 ○【学年全体校風指導年6回実施】 ③○基本的生活態度はある程度確立されていた。体育、清掃・作業時以外のジャージ着用は見られない。 ○乙女塾の実施等、女子指導は充実してきた。 ◇さらに職員の指導の共通性を図りたい。 ④○生徒は校則をおおむね遵守していた。</p>	<p>A 28.6 % B 61.4 % C 8.6 % D 1.4 % ・感染症の件もあるが、公衆衛生意識を高く持たせることができた ・感染症に伴って体調管理の徹底がなされた ・知るかぎりでは良好である ・「できて当たり前」を継続させること。何かあるごとに「明誠生にとって当たり前」とは何かと考えさせ、基本に立ち戻ることを促した ・今年度の3年生の様子を見ると、特に、遅刻をする生徒が多かった。自己管理のできない者に進路実現はないうことを意識させなければならない ・担当を中心に日々のルール・マナー指導について指導や目配りに務めているが、一部の生徒の姿からはその成果が見られない。早朝登校時、土日の部活での登校時など教員の目が十分行き届かない時間帯に服装やバックの乱れが見られる。常に明誠生であるという自覚を持たせる等、指導を徹底したい ・登下校時の服装指導を徹底させたい (ジャージ、ウインドブレーカー、運動靴、布袋のみの荷物等) ・学年が高くなるにつれてジャージの着用が目立つ。部活のジャージやウエアを着ている生徒もいた。徹底したい ・乙女塾を実施することの意義(目的・結果)を検証しなければいけないと思う ・今年度、女子生徒の校風(頭髪)の基準が紙片で配られたことがとても良かった ・男子頭髪のツーブロックをどうしていくか ・清掃時にジャージを着用しない生徒が少数いる ・校則指導が形骸化している ・校風検査の見直しが必要である。時代にマッチしないところが多い ・自身が校則に対する理解度が高くなく、明確な指導ができなかった場面があった</p>	<p>A 12.5 % B 87.5 % C 0 % D 0 % ・時代に合わせた校則、校風検査が必要 ・男子でネクタイを短く結んでいた生徒を見かけた。校風は乱れるのが早いので規則はしっかり守るよう指導をお願いしたい B ・インフルエンザ感染は今年は少なかったと思う。手洗い、うがい、マスク着用など感染予防に努めていただいた結果、または予防接種などに務めた結果の表れか。ただインフルエンザは鳥・豚など異形変異型などの報告がある。毎年、ワクチンも向上しているので、今後も公衆衛生の徹底の継続をお願いしたい ・新型コロナウイルス感染症については早期の対応に感謝している。明誠で感染者がいけないのは公衆衛生の徹底のおかげだと思う ・最近の社会の状況から衛生管理には十分注意して気を抜かないように指導してほしい ・男子生徒のもみあげについて、清潔で学生らしく散髪したばかりで、校風検査を受け、もみあげを注意された。わざと伸ばしているわけではないのことに疑問に思っている ・今後、コロナ対策も重要な案件になる。よろしく願いたい</p>

<p>Ⅲ 心豊かで さわやかな生徒の 育成</p>	<p>部活動の充実</p> <p>①学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う 【部活動加入率 80%以上】</p> <p>②県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす 【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4部】</p>	<p>①〇多くの生徒が部活動に加入している。 ○【部活動加入率約 81%】 ○各部のテスト前の集団学習が活発になってきた。 ○各部とも積極的な活動が行われた。 ○試合の結果のみならず、各部活動を通じて人間形成にしっかりとした取組が出来るようになってきた。 ◇活動場所の施設が不十分であった。 ◇登下校時の服装、早朝時の自転車走行(併進、一時停止)について指導。</p> <p>②〇陸上部、バスケットボール部、棋道部、射撃同好会が全国大会に出場した。またチアリーディング部の活躍や図書研究会が高校生直木賞に参加。吹奏楽部等も県大会で活躍した。ほとんどの部が県大会に進出した。 ○【県大会出場～ほとんどの部、全国大会出場～4部】</p>	<p>A 40.0 %</p> <p>【B】 55.7 %</p> <p>C 2.9 %</p> <p>D 1.4 %</p> <p>・春の選抜は補欠だったものの野球部の活躍は目を見張るものがあった。サッカー、バスケ、チア、棋道、射撃といった部活・同好会の目覚ましい活躍が素晴らしかった ・部活動を通じた人間形成はどの部活も意識して指導していると感じた ・野球部の新人戦(秋季大会)県優勝、サッカー部の新人戦準優勝、バスケット部のウインターカップ県優勝(全国大会出場)、新人戦準優勝とメジャー団体競技でこれだけ活躍しているのは素晴らしい。また、各部活が他の部活に試合に応援に積極的に行くことも素晴らしい ・文化部は図書研究部、吹奏楽部の地道な活動が光る ・部活動は活発で、学校の活力になっている ・文武両道を目指し、入学する生徒も多い。より早い時期に学年と部活顧問との間で進路目標の擦り合わせが必要である ・活動が少ない(楽な)同好会・部活を選ぶ1年生が多かった ・部活を通しての人間形成にまだ甘さがある ・自主練習(特にバスケット部)の教員による見届けを行いたい。制服のままや裸足等の姿もあった ・登下校時の制服の着用については現状よいとは言えない。特に、冬場、部活の服で下校する者が多い ・下校時にジャージで帰るサッカー部員を多数見た ・活動場所の施設ができていないことがあったが、日直もしっかり点検しなければいけない ・生徒たちの頑張りを教員が制限しないほしい。また、活動場所が見つからない ・女子の部活を充実させたい ・普通科の生徒は部活だけでエネルギーを使い果たしてしまっていて、勉強に集中できない傾向が見られる</p>	<p>A 25.0 %</p> <p>【B】 75.0 %</p> <p>C 0 %</p> <p>D 0 %</p> <p>・学習面と共に明誠の顔でもあるので、これからも活躍を期待している ・野球・バスケ・陸上・チアなど目覚ましい活躍があり、学校が活気づいた ・文武両道の目標と進路目標のすり合わせは必要だと思ふ ・文武両道での活躍は素晴らしいと思うが、登下校時の制服着用についてしっかりした指導が必要ではないか ・部活動に対して保護者にもっと興味・関心を持ってほしい ・これからも文武両道の教育に注力していただきたい</p>
<p>Ⅳ 広報・ 渉外活動 の充実</p>	<p>効果的な広報活動による学校理解の促進</p> <p>①広報誌の発行、報道機関への周知等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める ②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。また、学校説明会参加者を増やす情報を提供する 【年間訪問者 163,000人以上、直帰率 39%未満】</p> <p>③より本校理解が深まり、募集に効果的な内容にするために、広報誌等の見直しを行う ④地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報の推進を図る</p>	<p>①〇「明誠ニュース」「進路だより」保護者会広報誌「初心」など予定通り発行した。 ○日刊スポーツ社に委託して「学校紹介新聞(科・コース版・部活版)」を発行し、小中学生の募集活動に活用した。 ○部活動・同好会の様子を紹介し、中学生の多様性に対応できるように努めた。 ○保護者会地区会で出された質問や要望への回答を文書で配布した。</p> <p>②〇HPの訪問者数が大幅に増えた。HPの更新を積極的に行い、内容の工夫も行った。</p> <p>〇◇【リニューアル(2017.10.1~2018.9.30)の訪問者 162,189人、月平均 13,516、直帰率 38.5%】</p> <p>③〇入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。</p>	<p>A 37.1 %</p> <p>【B】 55.7 %</p> <p>C 2.9 %</p> <p>D 4.3 %</p> <p>・広報誌を多く発行したり、保護者への情報伝達・発信がよくできている ・数多くの学校説明会の実施や資料を作成している ・広報誌はどれも分かりやすかった ・HPが見やすくなり、イベントの告知もしっかりできている ・HPの速報性が向上してよいと思う。記事削除も早くなればもっとよいと思う ・HPの作り方講座があると助かる ・各部活でPR動画などを作成してはどうか ・HPで部活の大会結果を載せていく ・明誠ニュースの作成が大変である。担当者の負担を軽減することはできないか ・例年通りは決して良いことではない。「やめる」「変える」「増やす」等、見直しが必要である。時代や生徒の関心も変わってきている ・地域との連携がほとんど見られない</p>	<p>A 12.5 %</p> <p>【B】 87.5 %</p> <p>C 0 %</p> <p>D 0 %</p> <p>HPは以前に比べ、更新もして見やすくなっている ・せっかく部活動の活躍が目覚ましいので、それぞれの部活をアピールするHPが見たい ・学校行事も生徒は楽しんでるので、その様子も多く載せてほしい ・HPの作り方、ユーチューブの活用方法など時代にマッチした広報内容・活動内容にすることも生徒・保護者の興味・関心を深めることにつながるのではないか ・保護者の意識が低いのではないか。どこの大学を受けたかとか、どこの大学に進んだとか、そんなことばかりに関心を持っていて、生徒の生活・活動、成長に関心がないように思える ・日頃、広報活動や地域自治会との協力態勢に努力されていると思う</p>
<p>積極的な 渉外 活動 の</p>	<p>①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに実施する ②小笠・榛原・焼津・島田・藤枝の各地域の訪問重点校と訪問校を定め、組織的に募集活動を展開する ③学習塾への訪問を行い、募集の拡大を図る</p>	<p>①②〇一日体験入学の参加者は生徒 1,335人、保護者 705人、合計 2,040人と昨年度より約 250人減少したが、1週間後の説明会には生徒 184人、保護者 136人、合計 320人の参加者があった。 年間説明会参加者は生徒 2,384人、保護者 1,548人となり、昨年度より約 300人減少した。今年度は直前説明会を日程の関係で1回減らしたことで、志太・榛原地区の中3生数が 240人減であったことも影響したと思われる。</p>	<p>A 45.7 %</p> <p>【B】 47.1 %</p> <p>C 4.3 %</p> <p>D</p> <p>・説明会等も多く実施できている ・教員が分担して各地区で募集活動を行った ・入試直前相談会の日数を増やし、参加者数で昨年度を上回った ・他の私学よりも説明会や中学校訪問は密であると思う。中学校訪問は中学の先生との大切なネットワークになっている ・説明会など天候に左右されてしまい、思うようにいかないことがあった ・県内生徒が減少している中で今年度もそれなりに人数を確保できた。渉外活動も中学校訪問、塾訪問、相談会、説明会と充実している。他校の渉外活動より基本的な方法は上回っている ・翔洋の無料バス、静学の立地と新しい施設など厳しい面がある。やはり進学実績向上で募集しやすい環境を整えたい</p>	<p>A 25.0 %</p> <p>【B】 75.0 %</p> <p>・先生方には本当に感謝しているが、少子高齢化社会の中で生徒に入学を希望してもらえるのか、大変な令和の時代に突入したと思う ・地域の中学校や学習塾への訪問等、地道な努力の積み重ねが大切ということだと思う ・グローバル社会の中で海外留学にもっと取り組み、PRしたらどうか。海外の国立大学医学部受験に対して学習塾と共同で取り組んでみたらどうか</p>

<p>IV 広報・渉外活動の充実</p>	<p>実践</p>	<p>④県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努めるとともに入試内容・方法について見直す</p> <p>⑤「一日体験入学」「入試直前相談会」の充実、取り組みの強化を図る</p> <p>【学則定員の確保】</p>	<p>○志太、榛原地区への中学校訪問を職員で分担し、3年主任や進路指導主事と直接面談して募集拡大を図った。また、通学費補助の対象となる静岡、小笠地区では重点校を絞り募集活動を行った、さらに、学習塾への訪問を積極的に行った。</p> <p>各中学校が計画する進路学習会への参加依頼は19校（前年と同数）であった。また、小笠地区の全中学校から本校への志願者（単願・併願）がいた。</p> <p>○高校入試の志願者・入学者数は、普通科が776人(単願146)、英数科が801人(単願112)、合計1,577人(単願258)となり、入学者は昨年度より単願で34名減少した。併願者の戻り76名を含め入学者は334名となり、学測定員385名に満たなかった。</p> <p>③◇福岡・札幌入試は、受験者は125人(昨年比19人増)で、単願合格者は5人であった。併願合格者の中には本校入学に前向きな生徒もいたが、入学には至らなかった。学習特待生の入学につながるような方策を検討する必要がある。</p>	<p>2.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が中学校に事前連絡し訪問して、組織的に取り組んでいると思う</li> <li>・中学校訪問や進路講演に行くとき明誠OBや保護者であった先生方がいらっしゃる。より緊密な関係を築き、明誠応援団としたい</li> <li>・これからさらに綿密な渉外戦略が必要である</li> <li>・担当教員は大変な仕事をいつもやってくれている。全職員が「生徒を連れてくる」という意識を持つべきだと思う。勉強だけやりたいという生徒は少なく、部活も勉強も頑張りたいという生徒がほとんどだと思う。進学校（静高・藤枝東高）から生徒を本校に目を向かせるためには、部活と勉強の両立ができる雰囲気を作っていく必要がある</li> <li>・県西部通学定期半額補助の認知度をもっと上げる取得組みをすべきだと思う</li> <li>・中学校訪問だが、在籍生徒への指導や授業との両立が困難である。やり方を変えていただきたい</li> <li>・中学校訪問は職員全員で行うべきである</li> <li>・中学校訪問が流れ作業のようだった。どうすればよいのか考えたい（アポを取って伺っても「資料を受け取るだけで大丈夫です」と言われてしまった）</li> <li>・部活動で生徒を多く集める方針は正しくないと思う</li> <li>・札幌入試を本格的に始動すべきである。戦略を掲げ目標を持って挑みたい</li> <li>・出口での成果が生徒募集に大きく関係している</li> <li>・15歳人口が減少している中でどう成果を出すのかが大きなポイントになってきている</li> <li>・子どもが減る中で、どのようにして生徒を集めるのか職員会議で話し合っていく必要がある</li> </ul>	<p>C0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明誠は予備校ではないので、生徒の学力だけでなく、心の成長もとても大切である。明誠の生徒はとても良いと思う。保護者にもっと学校に関心を持ってほしい</li> <li>・教育の質の向上は募集の要だと思う。明誠は募集の安定のための活動が上手くできていると思う</li> </ul>
<p>V 教育施設・設備の活用</p>	<p>安全で快適な教育環境の実現</p>	<p>①学習活動や部活動が安全かつ快適に実施できるように常に配慮する</p> <p>②施設・設備のより有効な活用を図るとともに、机・椅子の整備等、教育環境の整備に努める</p> <p>③清掃状況を具体的に指示し学年主任や清掃担当と協力して清掃指導の徹底を図る。また事後の点検を行う</p> <p>④破損箇所の把握と迅速な修繕を図る</p> <p>【6月・11月・2月の一斉点検実施】</p> <p>⑤電気、紙等の節約を励行し、経費と資源の有効活用を心がける</p> <p>⑥消灯、戸締まりの徹底を図る</p> <p>トレーニングルームの使用について注意・説明会を行う</p> <p>⑦地震発生時の避難や防災に関する訓練・学習会を実施し、生徒の安全を確保する</p> <p>⑧原子力災害に対する避難計画を作成する</p>	<p>①○毎火曜日早朝に理事長点検を実施し施設の安全を確保した。</p> <p>○◇清掃活動に力を入れた。改善された点と不十分な点の両面が見られた。</p> <p>◇校舎施設(特にトレーニングルーム)については徹底しなかった。</p> <p>②○机、椅子、黒板等の劣化が見られる。継続的な更新を行っている。</p> <p>③◇消灯、空調のスイッチオフ等の節電や紙の節約などはまだ十分とは言えない。</p> <p>④○5月に防災避難訓練、8月に防災学習を実施し、防災意識を高めた。</p> <p>○防災マニュアルを常時活用できるように生徒手帳に添付にした。</p> <p>⑤◇原子力災害に対する避難計画は未作成であった。(藤枝市の指針が未発表のため)</p>	<p>A14.3%</p> <p>B55.7%</p> <p>C25.7%</p> <p>D4.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスでの「私学とは思えない」という保護者からの反応に今後、どう対応していくか</li> <li>・施設・設備の老朽化は著しい。部活動特待生や留学生等を見直し、必要な修理に当ててほしい</li> <li>・火曜日のために月曜日の清掃をしっかりとやるようになってしまっている。普段からやれるように工夫していきたい</li> <li>・校舎に関する未施設が相次いだので、このようなことはなくさないといけなと改めて思った</li> <li>・トレーニングルームの最終施設については使用生徒を集めて、定期的にミーティングを行い、周知徹底を図っていかねばならない</li> <li>・戸締まり、特にトレーニングルームは時々指摘を受けるが、使用上の注意を年度当初、後期と2回行ったことで以前より改善した</li> <li>・「9時まで学習」の最終見回りをすると、特に施設の確認が不十分であることが多くある</li> <li>・視聴覚・PC関係の設備等が不十分である。ハード面が時代遅れの感がある</li> <li>・机・椅子の交換が終了した。使い方も数件を除けば良好である</li> <li>・新しい施設の学校を教員見たが、中学生の進学意欲に影響する。せめて破損箇所の修理は迅速に確実に行ってほしい</li> <li>・最近の生徒は身長が高い。窓側フェンスの低さが転落につながらないかと心配である</li> </ul>	<p>A0%</p> <p>B75.0%</p> <p>C25.0%</p> <p>D0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の環境に感謝しながら、教職員・生徒全員でさらに良い明誠(学校づくり)を意識して行ってほしい</li> <li>・今年度末の新型コロナウイルス感染防止対策で臨時休校となり、今後の学力への不安もあるので、様々な対応ができるように準備が必要</li> <li>・施設・設備は継続して改善をお願いしたい</li> <li>・施設は全教職員での徹底指導が必要</li> <li>・和式トイレのメリットは「掃除が楽」「形がシンプル(排便時に水はねしにくい)」「価格が安い」「臀部が汚れない(直接便座に座らない)」「足腰が鍛えられる」と言ったことがある。「ビジュアル的に不衛生」「私学とは思えない」といった保護者等からの声もあるかと思うが、このままでいいと思う。ただし、トイレ掃除の徹底は必要である。</li> <li>・校内禁煙推進をお願いしたい。受動喫煙を防止するためにこと喫煙場所が校内にあるのは不安。生徒も見ているし、教育者として喫煙自粛をしていただけないか</li> <li>・防災訓練は必要。時間を作って訓練してほしい</li> <li>・防災器具等はいつでも使えるように確認が必要</li> <li>・トイレは直した方がいいと思う。なぜ、1階だけきれいなのか。生徒ファーストでお願いしたい。女子は和式で不便だし、かわいそう</li> <li>・学校運営で教育ともに施設整備はたいへん重要。校舎老朽化の問題の将来への投資計画および破損箇所の早期の修理についてはいち早く検討していただきたい</li> </ul>